

スペック120の誘惑

赤松

青海

人 物

大淵糸（21）大学3年生・パパ活女子  
佐伯斗真（15）写真のみ。中学3年生  
宮園聖歌（23）糸の彼氏  
松林政史（21）糸の友人  
大学教員（43）会社員  
女性会社員（40代）

大学教員（50代）

○ マンション・糸の部屋・リビング（朝）

スマホのアラームが鳴り続ける。

服が散乱した室内で、大淵糸（2

1）、佐伯斗真（23）が同衾。

下着姿の糸、布団から這い出て、目を擦りながらアラームを止める。

覆い被さる佐伯を除けて起き上がる。

○ 同・脱衣所（朝）

シャワー室からシャワーを浴びた糸が出て、バスタオルを体に巻く。シャワー室には全面鏡があり、糸の細いボディラインが映る。

糸、深呼吸して体重を量る。

体重計の表示は47キロ。

糸、落胆の表情で大きな溜息。

○ 同・糸の部屋・リビング（朝）

部屋の隅に追いやられた佐伯が起床。

部屋の真ん中に机が置かれている。

佐伯、欠伸をしながら部屋の奥のキッチンで料理をしている糸を見る。

糸、お腹の見える黒のクロップドロップスにチェックのミニスカート。

佐伯、布団を持ち上げ股間を覗く。

佐伯「やべ、なんかキタ」

糸、ベーコンエッグを作りながら佐伯の方を見る。

糸「おはよ斗真、なんか言つた?」

佐伯「いや。糸、かわいいなーって」

糸「じやあ服着て片付けて。邪魔だから」

佐伯「りよーかい」

佐伯、立とうとして中腰で止まる。

糸「…早くしてよ」

佐伯「わりい今立てねえ。別の勃つてて」

糸、冷ややかな目で佐伯を見る。

× × ×

半袖短パンの佐伯の前に、ベーコンエッグの皿とトーストののつた皿。

糸、プロテインを飲みスマホを弄る。

糸の前にはフルーツ入りヨーグルト。

テレビはニュースのエンタメ企画。

佐伯、テレビのKポップアイドルにニヤけながら、スマホを操作し出す。

佐伯「へーサラつて160センチなんだ。糸より5センチも低い」

糸「体重は?」

佐伯「あー……、載つてない」

糸「ま、そうだよね」

糸、残念そうにスマホに目を落とす。スマホの画面には毎日の摂取カロリーと栄養素、体重をまとめた表。

『一食400キロカロリー』の太字。

糸「糸は今日どんな予定?夜、家いる?」

佐伯「どうしようかなー。一旦パチ行つて

ー、友達と会つてー、深夜バイト」

糸「友達?女の子でしょ」

佐伯「友達だつて。女は糸がいんじやん」

糸「私、まだ聖歌とのこと許してないけど」

佐伯、糸の手を取り、掌を合わせる。

佐伯「ほら、この通り」

佐伯、そのまま指を絡める。

糸「…今何考へてる?」

佐伯「指細いなー」

糸「こつちは真剣だつたのに」

糸、佐伯の手を解いて立ち上がる。

佐伯「俺もマジだつて!夜!家いてよ!」

○電車・女性専用車両・車内

糸、満員電車の席に座っている。

周囲の女性、ちらちら糸を見ている。

糸M「この視線、嫌いじゃない。相手と自分を比較する目。それからの羨望の眼差し」

糸、スマホを操作し、SNSを見る。

スマホの待受表示『目標45キロ』。

糸M「身長165センチ。体重47キロ。B

M I 17・3。身長から体重を引いたスペックは118。あと二キロでスペ120」

検索欄に『スペック120』と打つ。

糸の前の女性会社員（40代）、眉を  
顰めながら糸を見ている。

糸M「私を謎に心配してくる人がいるけど、  
多分ナンパされた経験も無いんだろう」

スマホ画面はBMI計算で痩せ気味と  
出て喜ぶ誰かの投稿。

### ○大学・講義室

大学教員（50代）、すり鉢状の講義

室で栄養学の授業をしている。

糸、後方に座り、学生を見下ろす。

糸と同じクロップドトップスやショート丈のトップスを着た学生。

糸M「韓国アイドルのせいで、体のラインを見せるハードルが下がってる」

### ○渋谷駅・ハチ公広場

糸、石段に腰掛け往来を見ている。

ミニスカートに黒いナイロンソックスの女性や、ルーズソックスの女性。

糸、忌々しそうにそれらの人を見る。

糸M 「痩せる努力をせず、流行に乗つて安易に体のライン出す女が、私は許せない」

糸、宮園聖歌（21）がフラツペを片手に駆け寄るのを見る。

聖歌 「やつほー糸！ これからパパ活？」

聖歌、長身にジヤケットを羽織り、脚にぴつちりしたスキニージーンズ。

糸M 「もう一つ許せないのは、努力しなくても体質的に痩せられる奴、宮園聖歌」

糸のスマホは『フラツペのカロリー 227キロ』と計算されている。

聖歌 「糸？ 何か怒つてる？」

糸 「聖歌。⋮⋮ 今日全然体重落ちなくて」

聖歌 「えー痩せてると思うけど。また斗真君

のナンパかと思つた」

糸 「まだまだ痩せてない。あと斗真の面倒は

日常生活ノーカン」

聖歌 「そんなのとよく付き合えるね！」

糸 「⋮⋮ 初めてナンパしてくれた人だし」

聖歌、照れて俯く糸から目を逸らす。

男性の声「あの、大堀衣織さんだよね？」

若林政史（43）、糸に声をかける。

若林、品定めするように糸を見る。

糸「初めまして！大堀衣織です！」

糸、営業スマイルし、聖歌に小声で、

糸「ごめん仕事行く。聖歌も仕事ガンバ」

糸、若林の手に抱きつき、ぐいぐい先導して立ち去る。

聖歌、フラッペをすぞぞと飲んで見送り、暫くして佐伯が駆け寄つてくる。

佐伯「聖歌ちゃんごめん！遅れた！」

聖歌、むすっとした表情。

聖歌「糸いるつて聞いてない。わざと？」

佐伯「え？糸？どこ？」

聖歌、首をすくめて苦笑する。

聖歌「斗真君の天然、私はいいと思う」

○ カフェ・店内

女性客やカップル客が多い店内。

巨大ホットケーキにを撮影する若林。  
糸、メニューにある「933キロ」の  
小さな表記に笑顔が固まる。

若林「僕甘党でさ！ 食べてみたかったんだ！  
おっさんはこういうの頼みにくくて」

糸「そ、そなんだ」

糸、水をゴクリと飲み干す。

若林「本当に何も要らない？ 別に奢つてあげ  
るし、むしろ奢つてあげたいというか」

糸「ダイエットで食生活管理してるから」

若林「ダイエット？ 衣織ちゃん十分痩せて  
よ。気にしなくていい」

糸、むつとして語気を強める。

糸「痩せてない。まだ足りない」

若林、諭すように緩慢な優しい声で、  
若林「感心しないな。知ってる？ 今の日本の  
若い女性、世界的に見て痩せすぎらしい  
よ？ 日本と同じくらいの肥満率なのはー」

糸「貧困国の人たち、でしょ」

若林、先に言われ、言葉に詰まる。

糸「で、あれでしょ。肌ボロボロ。骨スカスカ力、貧血、生理不順。もう知ってるから」

若林「…何でそこまでして」

糸、スマホを操作し、若林に見せる。

糸（15）のふくよかな体型の写真。

糸「中学の私。渾名は名前もじつて大豚」

若林、驚いて写真と糸を見比べる。

糸「元からいじめられてたけど、学校の書類管理が雑で私の体重がクラスに漏れちゃつて。いじめが更にエスカレートしたの。だから私、死ぬほど頑張つて痩せたんだ」

若林「でも！そこまで痩せる必要は…」

糸「…怖いの」

糸、顔を細長い指で蔽う。

糸「怖い。死ぬほど怖い。またあの頃に戻るのが。…この生活は変えられない」

糸、取り繕うように笑顔を見せる。

糸「でも聞いて！ここまで痩せて初めてナンパされて！彼氏もできた！昔の私じゃ！」

糸、窓の外を見て表情が固まる。

糸、窓の外に佐伯と聖歌が連れ添つて歩くのを見る。

佐伯・聖歌、楽しそうに笑い合う。

若林「…どうしたの？」

糸「…もつと痩せなきや」

天気が曇りだし、遠くで雷鳴がなる。

○マンション・糸の部屋（夜）

机の上には大小のペアリング。

佐伯「糸と聖歌ちゃん、多分サイズおなじだよな。今朝触った感じと似てたし」

佐伯、手の中でペアリングを弄る。

佐伯「サプライズ、どんな顔すんだろ」

○坂道（夜）

糸、スポーツウェアで坂道ダッシュ。

雨が糸にどしどしと降り注ぐ。

糸「痩せなきや、私に価値なんて…」

足が滑り、途中で転けて倒れる。

待受の表示『目標45キロ』にヒビ。

赤  
松

青  
海